

日吉台地下壕保存の会

会報

第12号

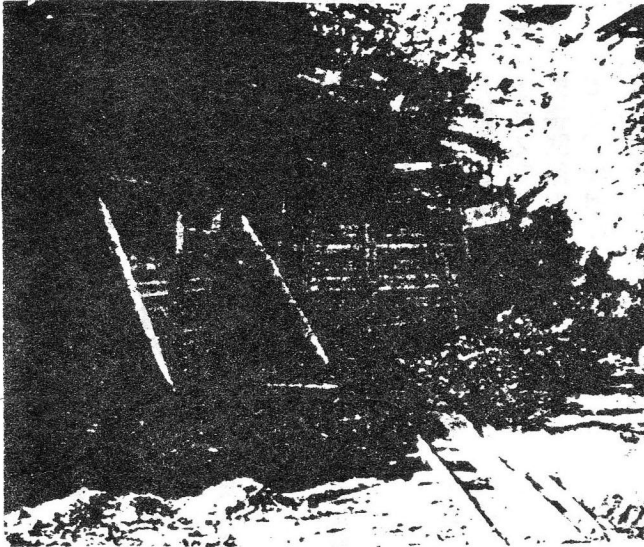
発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

223

横浜市港北区下田町3-15-27

045-562-1282 (寺田貞治方)



操業時の姿をとどめる浅川地下工場出入口
トロッコの線路が見える 1945年米軍撮影

目次	頁
○日吉台地下壕への思い	1
○保存会行事のお知らせ	2
セミナー(田中伸尚氏の講演)	
八王子の地下壕の見学会	
○第1回幹事会報告	3
○第2回幹事会報告	4
○日吉台地下壕見学会感想文	5
○地下壕関連図書紹介	8
○お詫び	8
○編集後記	8

日土ロム口地下壕 への思い

事務局長 寺田貞治

保存会結成から二年余り経ちました。

会員の数も増え、地下壕保存の必要性について、の理解者も増えてきたにもかかわらず、最近、少し焦りにも似た気持ちが出てきました。

全国的にみても、各地の保存運動は盛り上がりつつありますが、保存が実現したところは松代を除いて殆どありません。悲惨な戦争の傷跡は、全て無くしたい、国民の目に触れさせたくないという目に見えない勢力が、強くあるからでしょう。

戦争の体験者が少なくなってきた現在、私達に残された時間は余りありません。先日ある新聞に、ある団体の呼掛けで、誤って日吉台地下壕の市民見学会が報道されました。中止になったことを知らない人達が何百人も集まりました。集まった人達に謝り、一通り地下壕の説明をして、お帰り頂きましたが、これを見ても人々の日吉台地下壕への関心の深さがわかります。

一日も早く地下壕の出入口や内部が整備され、保存公開が実現できればと思います。皆さん、いいお知恵がありましたら御連絡下さい。

これからも、何卒、暖かい御支援と御協力をお願い申し上げます。

保存会行事の

お知らせ

●セミナー

日時 七月十四日(日)

午後二時半～四時半

場所 慶應義塾大学(日吉)

藤山記念館大会議室

参加費 五百円

当日徴収します。

内容 田中伸尚氏の講演

テーマ「なぜ日本は太平洋戦争に突入していったか」

講師略歴

一九六七年 慶應義塾大学

卒業

朝日新聞記者を経て、現在

フリー。気鋭のジャーナリ

スト。著書は「ドキュメン

ト昭和天皇」全六巻ほか多

数。

◎おの願

多数の会員の方の御参加を
お願い致します。きっと私達
が知らない開戦までの謎が明
らかにされるでしょう。

田中氏は体がお弱いので滅
多に講演されません。この講

演は貴重なものとなるでし
う。

講師の田中氏の書かれた

「昭和天皇」は、構想・取材

五年、宮中の奥深くにわけい

り、一次資料を駆使して描か

れ、歴史に残る名作といえる

本である。そこには、「泥沼

の中国侵略から太平洋戦争へ

と暴走する激動の時代に、国

民の埒外で謀略的に推進され

た戦争政策・、天皇を中心

とする宮中と政府・軍部との

緊張関係の中で、天皇は何を

考え、如何なる役割を果たし

たのか？そして、それは国

民に取って如何なる意味を持

っていたのか？

日本の、アジアの民衆幾百

万を死へと追いやった太平洋

戦争へ暴走していく日本。日

米交渉は決裂し、開戦前夜の

緊迫の宮中、午前会議、もし

て開戦の聖断が下った「事な

どが克明に描かれています。

ぜひ、皆様お誘い合わせの

上、お出かけ下さい。

●八王子の

地下壕 目見学

日時 八月十一日(日)

午後二時

集合場所 JR中央線または

京王線、高尾駅・

南口改札口広場

参加費

三百円(資料代、

案内者の謝礼など)

定員 三十名

申込 七月十五日までに、往

復葉書で、住所・氏名

・電話番号をお書きの

上、事務局に申し込ん

で下さい。定員になり

次第締め切りますので

御了承下さい。

◎見学内容とおの願

八王子の地下壕は、イロハ

の三地区に分かれ延べにして

長さ十数キロにわたり、飛行

機の地下秘密工場として使わ

れた。ロハは既に埋め立てら

れたり、埋め立てられようと

している。今回見学するのは

イの地区であるが、ここも出

入口はすべて閉ざされ見学す

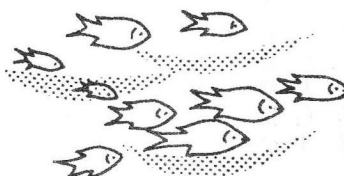
ることは殆ど出来ません。

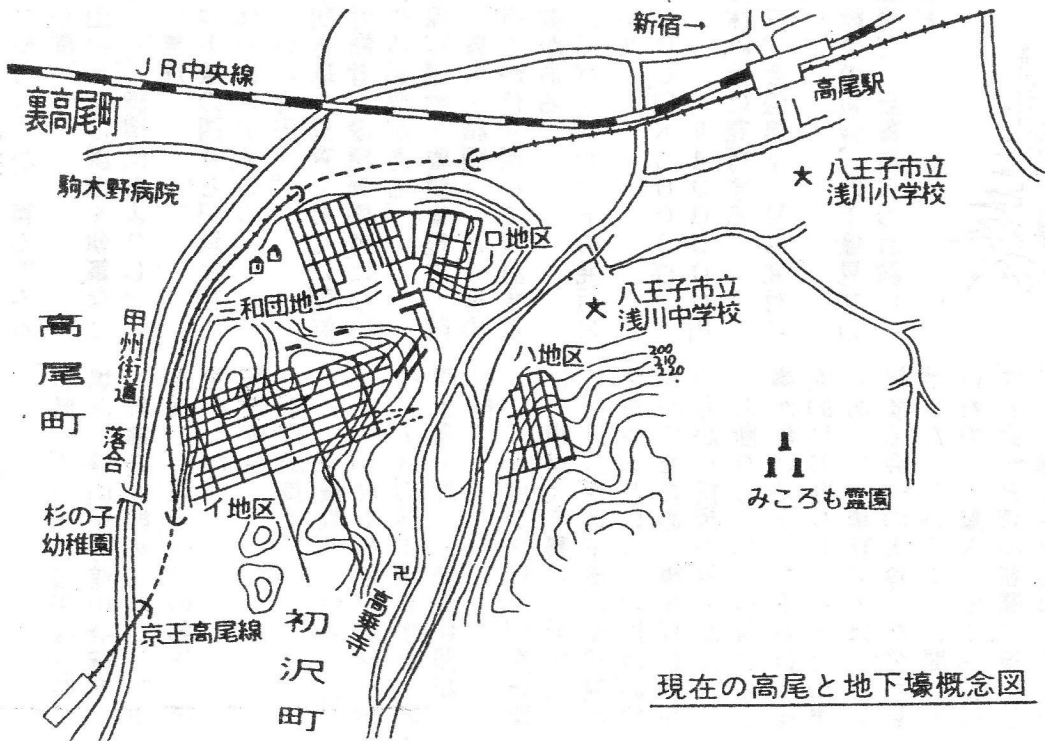
下壕研究家の豊島氏の御好意
によって、特に出入口の農家
の方の了解のもとに見学でき
ることになりました。イの地
区の地下壕は、三地区の中で
は最も大きく七ノ八キ口はあ
ろうかと思ひます。

この地下壕掘削に動員され
た朝鮮人労働者の数は、約五
千人とも七千人ともいわれ、
死んだ人は少なくとも十数名
はいたと推定されている。

見学の前か後に、地下壕に
ついての説明があります。地
下壕見学の際には、案内者の
指示にしたがって行動し、謙
虚な気持ちで戦争と平和につ
いて考え、歴史を学習して頂
きたい。

当日の携行品と服装は、懐
中電灯、長靴、帽子、手袋な
どです。





現在の高尾と地下壕概念図

第一回幹事会 報告事項

日時 五月八日午後五時半
場所 藤山記念館中会議室

報告事項

事務局長より

一、会員数 三三九名

二、4月14日：港北区主催の地下壕を中心とした史跡めぐり。申込百五十三名、抽選で参加者五十名とし、二班に分けて見学（他に区職員約十名参加）。

三、4月18日：朝鮮総連本部の韓さん他二名と日吉で会談。朝鮮人強制連行・強制労働の日朝合同の調査委員会を神奈川県でも作りたいので協力してほしいとの事であった。

四、4月20日：第三回総会。出席者四十二名。松代大本営の保存を進める会から電報が届いた。

五、4月30日：東京急行電鉄株式会社に新しく建設する日吉の駅ビルに文教都市にふさわしい施設を設けて頂きたいと要望書を日吉地区町内会長全員の名前で提出した。

具体的には郷土の歴史に關係したものを展示するフロアや、ちよっとした文化的な催しが出来るとフロアを要望した。

六、5月1日：玉川高島屋友の会より8月ごろ地下壕を見学したいと相談があった。

七、5月18日：駒林小学校PTAが見学予定。

八、5月26日：「横浜大空襲を記録する会」が見学予定。

九、6月28日：慶應義塾学生国際関係会（慶應義塾学生福利厚生機関の一つ）が、外国人交流学生十数名と見学予定。

幹事より

亀岡：講演会などのイベントを出来るだけやる。

議事

一、今年度の活動について

●見学会：八王子や滑川あるいは松代の地下壕の見学会をやる。

八王子の地下壕を問い合わせてみる（寺田）。

●講演会、座談会：田中伸尚さんか山中恒さんに講演を頼んだらどうか。

田中さんは、体が弱いので余りやらないが、頼んでみる(小園)。

山中さんは講演を執筆など忙しく、講演はあまりしないので無理。

●地下壕の調査と記録保存：夏休みにビデオとカメラでやりたい(寺田)。

●聞き取り調査：とくに朝鮮人労働者、慶應関係者についてやる必要がある。

●保存運動(要望書提出、陳情、署名・請願)：どう進めて行くか色々調べて検討する必要がある。

二、パンフレットの発行について

2000円×2000部

＝4000000円

夏休み後に発行する。

三、会報第十一号の発行について

総会の報告、地下壕見学の感想文、会費納入のお願い、など

第二回幹事会△△△△△△△△

日時 六月十二日午後五時半

場所 藤山記念館中会議室

「幹事会を始める前に、幹事全員で会報十一号の郵送の準備をした。」

報告事項

事務局長より

一、会員数＝三百八十三名

二、5月18日：駒林小学校PTAの地下壕見学会(約四十名参加)。読売新聞記者取材。

三、5月19日：読売新聞

に、横浜大空襲を記録する会、日吉台地下壕の市民見学会をやるといふ、呼掛けの記事がでたため、事務局に地主の方から抗議の電話があり、「お断りしたい。今後こんな事が起こるようであれば、全面的にお断りしたい」との事であった。事務局では、「記録する会」の人達十数名が見学したいというように聞いていたので、驚き、すぐ「記録する会」と読売新聞に連絡して、抗議と見学会は出来ない旨を伝えた。

四、5月23日：日吉で、

小園、亀岡、寺田の三人で講演会、見学会の具体的な内容について話し合った。

小園さんより、田中伸尚さんから講演の内諾を得た。講演の前に地下壕を見学したいとの事であった。日時は七月十四日(土)午後一時三十分より。

寺田氏より、八王子の地下壕の見学、豊島さんより案内してもよいとの返事を頂いた。日時は八月十一日(日)、詳しいことは後でつめる。

五、5月26日：横浜大空襲を記録する会の地下壕見学会は、中止になったにもかかわらず、その事を知らない人々が四百～五百人が来て、日吉駅はごった返した。慶應の広場に誘導して、「記録する会」の責任者から事情の説明と謝罪をして頂き、一応地下壕の話をもっと分ばかりして、記念館裏の地下壕の塞がれた入口を見せて、お引き取り頂いた。その後、「記録する会」は西量寺で会合を持ち、地下壕の話をした。翌日この記事

が神奈川新聞にでた。

六、5月28日：「玉川高島屋友の会」の人に会い、地下壕の見学は地主の方から断

わられたことを伝えた。地下壕に入らず外から堅穴や塞がれた入口を見るのにとどめ、代わりに古墳などの史跡めぐりをする事となった。

七、6月3日：慶應義塾学生国際関係会の人達が地下壕を下見。

八、6月25日：有隣堂出版が、日吉台地下壕についての座談会をする予定。

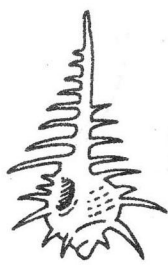
九、6月28日：慶應義塾学生国際関係会が、外国人交流学生数十名と見学予定。終わって第二次大戦を中心に戦争と平和について話し合う。一〇、7月7日：日吉台西中学校PTAが地下壕見学の予定。

議事

一、当面の活動について

●八王子の見学会：日時＝八月十一日(土)二時 集会場所＝JRC中央線または京王線、高尾駅・

南口改札口



●田中伸尚氏の講演会：
日時 七月十四日（日）

二時半

場所 藤山記念館大会議室

ついて

幹事会報告、地下壕見学の感想文、見学会・講演会の案内など

三、その他

●三色旗（慶應義塾大学通信教育部発行）に、永戸多喜雄氏が「日吉キャンパスの地底には」というテーマで日吉台地下壕の事を書かれている。

●第二回朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会について

保存会として賛同団体として参加するかどうかを討議した結果、様々な団体が賛同しており、特に参加したからといって拘束されることは何もなく、かえって様々な情報が見られるので、参加することに決定した。また、会として小園幹事を送ることにし、寄付金によって、交通費と参加費を出すことにした。

日吉台小学校PTA
目元学子△△△△△△△△△△

日吉台小学校PTA

日吉の地に移り住んでから早五年、長女が慶應義塾中等部に入學してから丸三年。日吉、慶應義塾、ともにとても大切に身近な存在であったにもかかわらず、地下壕の事は全く知らずに過ごして参りました。私は戦後生まれの母親として三人の子供の育て真

は母親となつてからは、より強く感じております。戦争を知らない私が、どの様な形で子供達に戦争の悲惨さ・平和の尊さを伝えたらよいのか。頭の中のイメージだけでなく、まさに百聞一見にしかずの思いで参加させて頂きました。

頭の中が真っ白になつてしまふような驚きを感じました。あの様な時代によくぞこんな地下壕を。強制労働をさせられた人々の計り知れない苦勞を思うと胸が痛みます。

学校や随所で先生の御説

明は大変分かり易く、また興味深く拝聴致しました。地味で根気のいる仕事だと思いましたが、保存の会にぜひ頑張つて頂きたいと思つています。また、もし出来れば長女の在学中に、塾生達に生きた教材として体験する機会が持てれば素晴らしいことと思つております。本当に有難うございました。

（2年3組 中山）

先日は地下壕の御案内戴きありがとうございました。感激しました。私事で恐れ入りますが、敗戦後十年たった頃、私が中学生の時「レイテ湾の日本艦隊」なる本を入手したのでした。中野五郎の訳本で専門語も多く難解な本でしたが、興味深く読みました。その本はずっと昔に紛失しましたが、内容は今でも記憶しています。「捷一号作戦」

「我に天佑神助あり」「断じて行えば鬼神もこれを避く」「阿修羅と化す」「酸鼻」などの言葉の中に、戦艦武蔵・金剛・山城や、空母端島・千代田を次々に喪失していったのでした。その後沖繩戦や大

和の最後などの戦記ものを読むきっかけとなったものでした。

今回日吉からこれら一連の作戦が指令されたことを知り大変驚きました。ふだん何気なく散歩していたこの平和な丘に、このような大動乱の時期があつたとは。

壕に入ってみると、大規模でかつ堅固なもので、大きな労力が払われたことも知りました。朝鮮から連れてこられた人達も多数働いていたとの事でしたが、私は前に仙台市南方の山門山高射砲陣地建設の時も朝鮮の人達を連れてきて働かせたと聞いたのと同じ様な話でした。建設した人達も、日吉に住んで爆撃の被害にあつた人も、そして多分一度も作戦効奏する事なくこの壕で策を練つていた軍人達も、どれほど苦勞したことでありましようか。

第二次大戦は過去の誤りであつたと思つています。それは日本が敗れたということではなく戦い自体が無益であつたとしてか考えられませんか。その後、

朝鮮、ベトナムで戦争がありました。そして現に今も、何と国連決議の名ですら戦争が行われたのでした。兵器の在庫は確かに減らすのに成功しました。これで何がよくなるのか心配でなりません。正義のためや平和のための戦いなどありません。戦争は所詮不正義で殺戮なのです。

将来も日本の軍拡状況からみて、戦争が準備されているようです。何かできることから平和の基礎をつくってゆかねばなりません。苦しい戦いも時間が過ぎれば風化するものです。この地下壕こそ、また過去の歴史の証人として、次の世代に平和の大切さを語りかける証人として、後世に残すべき遺産と考えます。

(6年養護組 坂入)

先日は地下壕の案内をして頂きありがとうございます。大勢の方達の案内を何回もしていらつしやる事でしょう。広い地下壕を見学の間、最初から最後まで細かな説明をして頂き、あの湿った地下の中で働いていた沢山の人の姿

や戦争が、とても身近に感じられてきました。

秋田に生まれ、身内に戦死した者もなく、私にとつて遠い過去の出来事であった戦争。日吉地区センターにあった昔の日吉ののどかな田園風景の写真や、東京から疎開してきたそのまま住み着いた人の話などから、日吉と戦争は結びつきませんでした。それが子供が小学校に入り、国語で戦争で家族を亡くした子供の話などするようになり、日吉も戦災にあつたことを事を知り、そして子供が小さな頃花見に行つたのどかな大学のキャンパス内に、あの様な大規模な地下壕があつたことは大変な驚きでした。

戦争を学ぶ子供達に、自分達の街に残された戦争があつたという事実をぜひ見せてやりたいと思ひました。物見遊山として見学しないでと注意を受けドキッとしましたが、見学後には地下壕を造るために犠牲になつた人や他国に連れてこられ労働を強いられた人々の事を思い、安易にみた

いと思つた自分を反省させられ、戦争が起ころないように願わずにいられませんでした。

(2年1組 坂本)

昨年の母親懇談会で地下壕の存在を知り、今回見学させて頂きました。物見遊山でなく云々・・と自分にいい聞かせながらも、実際にY字型の入口を見るまでは、ウキウキしていたように思います。

はじめに四十センチ厚さのコンクリートの壁に驚き、地下壕の中に入つてみて、その大きさ、長さに圧倒されました。四十六年も前に造られたものだと自分に言い聞かせ、祖父母、父母から聞いていた終戦間近の窮乏生活を思い、一体どういう人が、どのくらいの期間でほつたんだろう？このことが不思議でなりません。朝鮮の人々という事で一層やりきれない気持ちで帰ってきました。

祖父母の時代の事だと思つたと事実を記録することが時間との戦いだ、とあらためて思いました。

(2年3組 森岡)

先日はどうもありがとうございます。地下壕見学はまことに申し訳ありませんでしたが、学校での説明までは心うきうき小学生の観光気分そのものでした。が、しかし、地下壕入口にたつた時点で先ず、大きさに圧倒されました。日吉に地下壕があるのは前から聞いていましたが、話に聞いていた旧家の防空壕の毛の生えたものを想像していた私は、中に入つて余りの巨大きさに驚いてしまいました。

当時上層部では負け戦を知つていながら、あの様な地下壕を造らせ、労働させられた人々が勝利を信じて作業をしていたことが、なぜかあの湿つた空気と電気の白いソケットが、今も話しかけてくるようで、空しさを感じてなりません。その時にこの中でなくなつた労働者や戦争でなくなつた人々の犠牲で、今の日本の繁栄があるのを忘れてはならない。

病氣や怪我で病院を駆け回つたり、寝ずに心配をし、その掛替えのない我が子が、先

日の戦争のように一個人の欲望のために戦いに出て、犠牲になることなど絶対に避けなくてはならない。あの様な地下壕は、過去の過ちの教材であってほしいし、子供にもぜひ見せたいと思います。

(2年1組 若林)

見学に参加させて頂いて、とても良かったと今も思っています。毎日、早くあの地下壕を多くの人に見て貰いたいと思う気持ちをお持ちになっている先生方の夢がかなう日が早くくると良いと願っています。

でもその日はまだまだ先の事。戦争の事、戦争でなくなった人達の事、この地下壕を造った人達の事など、これからの人達に分かって貰えるかどうか。だんだん戦争の型も変わってきたこんな時代、私も戦争を知らない一人ですが、あの日から映画で良くみた戦場場面が本当にあつて、また色々な所に残っている事を思い知らされました。

出来たら私の子供達にも見せて、戦場の怖さを話して、

物の大切さを分かって貰いたいと思います。色々説明して頂いたことの出来る限りを子供にも話したいと思つています。本当にどうも有難うございました。

(3年3組 牛久保)

日吉に引越して一年が経ち、もっと日吉の町について知りたいと思つてきたときに、幸運にも今回の地下壕見学の話を頂きました。寺田先生のお話は大変興味深く、地下壕を掘るために沢山の朝鮮人労働者が労働を強いられたこと、農民が住居を追われたこと、また海軍の施設があつた為に日吉の町は空襲を受け灰になつてしまった事など、想像を絶する日吉の町の悲劇を知りました。

またシヨックだったのは、日本海軍は情報を軽視して、人の命を預かりながら、情報なしに大体的見当で戦争をしていたという事でした。人命を預かる業務にありながら、現在も生き続けている日本の「縦の社会」を固持し続けたことなどを知って、

今の日本政府に対する苛立ちと似たものを感じたのは私だけだったでしょうか？

戦後四十六年、あの戦争の悲劇は風化されつつあるといわれる現在です。思わず「人の命は地球より重い」という言葉を信じつつ黙とう致しました。

私達は平和を維持するためにはあらゆる努力をし続けなくてはならないと、改めて感じさせられた一日でした。先生のお話、是非もう一度伺えたらと思ひます。

(3年1組 文岡)

日吉台小学校の先生から地下壕見学会のあることを教えて頂いたの参加でした。見学会に参加するまでは、このような壕のあることを何も知りませんでした。今回見せて頂いた壕は、私の住んでいるマシヨンの敷地に隣接しており、その地上部は春になると、それは見事に桜が咲き乱れ、ひとたび風が吹くと、花吹雪となつて荒廃した人気のない大学の寄宿舎にぎやかにする美しい所なのです。

その地上とあまりに違つていた地下壕、ありの樂のように奥深く、そして入念に厚くコンクリートで塗り固められていました。まるで地下鉄が走るトンネルのようでした。

敵機が頭上を飛来するようになり、国土がどどん戦場となつていく時に、必死に穴を掘らせ、その安全な場所を戦術を練つたのでしよう。一体どのような考えの下で、又これを造ること何かが展開し、何かが望めたのでしょうか。地下壕で灯を消したとき、真つ暗になり、音もなくなり、何もかもが不気味でした。

この地下壕を寺田先生がお側にいらつしやるのを確認しながら、恐る恐る一步一步進んだとき、戦争の愚かさを感じました。そしてこのままで不備があるでしようが、色々語りかけてくれる現在の地下壕の保存も意味があるように思えました。有難うございました。

(6年3組 辻村)

地下壕の存在は知っていましたが、実際に中に入ってみると、今となっては「無駄に」費やされてしまったエネルギーの大きさを感ぜました。

こういった事は、資料や教科書で「知る」のではなく、実物で「感じる」のが大切で、保存の必要性を強く感じています。

(1年2組 大野)

地下壕塚関連
図書紹介

今回は貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございます。思った以上に、大規模な地下壕にびっくりしました。

◎わたつみのこえ

一日本戦没学生

記念会機関誌

(七月十五日発行)

*子供達にも戦場があった

小園優子

*激動の昭和史を語る

日吉台地下壕

寺田貞治

◎三色旗(六月号)

慶應大学通信教育部発行

*日吉キャンパスの

地底には

永戸多喜雄

◎昭和天皇(全七巻)

「昭和」の終えんの予兆の

中で、天皇と「昭和」を問

う注目の大河ドキュメント
(六巻まで既刊) 緑風出版
田中伸尚

お詫言

会報第十一号をお送りしました際に、一九九一年度の会費をお納め下さっている方にも、郵送事務簡素化のため全員に振替用紙を同封させて頂きました。誤解を生じた向きもあつたかと存じますが、悪しからず御了承下さい。

短編 佳木 俊 友 記 記

◆会員も三百八十三名ともなると、郵送事務も大変で、どうとう幹事会の時に出席者全員に手伝って頂きました。

◆それでも二時間近くかかりました。郵送事務の大変さが良くわかったとお手伝いして頂いた方がおっしゃっていました。

◆「これからもおっしゃって頂ければお手伝いますから」といわれて、本当に嬉しく有難く思いました。

◆会報十一号の発行からまだ日にちが経っておりませんが保存会の行事が迫っていますので、会報第十二号の発行を急ぎました。

◆今回の保存会の行事は滅多に聞けない話や、もう見られなくなるかも知れない地下壕を見学します。御期待下さい。

